

# 日本医学会だより

2008年10月 No. 40  
日本医学会

## 第 135 回日本医学会シンポジウム

「腎と全身疾患—CKDをめぐる最近の話題—」をテーマに、2008年12月4日(木 13:00~17:00)、日本医師会大講堂において開催する。組織委員は、富野康日己、伊藤貞嘉、横野博史の各氏。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ (<http://www.med.or.jp/jams/>)にて、申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、Web 上に映像配信される。

- ・序論：なぜ今CKDが注目されているのか—わが国のCKD対策のあゆみと今後の展望/横野博史(岡山大・腎・免疫・内分泌代謝内科学)
- ・CKD診療ガイドと日本人のGFR推算式/松尾清一(名大・腎臓内科学)
- ・心血管イベントとアルブミン尿の重要性/柏原直樹(川崎医大・内科学(腎))
- ・糖尿病性腎症対策の最近の知見/鈴木芳樹(新潟大・保健管理センター)
- ・高血圧とCKD/木村玄次郎(名市大・心臓・腎臓内科学)
- ・腎炎・ネフローゼ・血管炎/今井圓裕(大阪大・老年・腎臓内科学)
- ・地域医療連携とCKD重症化予防のための戦略研究(FROM-J)/山形邦弘(筑波大・腎臓病態内科学)

## 医学賞・医学助成費の決定

選考委員会を9月10日に開催し、平成20年度の日本医師会医学賞・医学研究助成費の授

賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞19、助成費63を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、助成費は15件を授与される。

選考の結果は下記のとおり。

### 〈日本医師会医学賞〉

- ・新規融合型チロシンキナーゼを標的とした肺がん分子診断法・分子標的療法の開発/間野博行(自治医大・ゲノム機能研究部)
- ・国民を代表する集団の長期追跡調査による動脈硬化性疾患予防のための研究：NIPPON DATA 80・90/上島弘嗣(滋賀医大・公衆衛生学)
- ・腸管局所免疫機構の解明に基づく炎症性腸疾患に対する新しい治療法の開発/日比紀文(慶大・消化器内科学)

### 〈日本医師会医学研究助成費〉

- ・炎症による発ガンモデルの構築/中野裕康(順天堂大・免疫学)
- ・術後腸管癒着の免疫学的発症機序の解析と制御法の開発/善本知広(兵庫医大・免疫学・医動物学)
- ・新規免疫抑制性サイトカインIL-27による免疫制御機構の解明と治療応用/吉田裕樹(佐賀大・分子生命科学)
- ・心臓特異的ミオシン軽鎖キナーゼ(cardi-

acMLCK)の機能解析による心不全の分子機構の解明/高島成二(阪大・分子心血管医学)

- ・自己免疫疾患の病態解明/松本 満(徳島大疾患酵素学研究所・免疫情報医学)
- ・アジアにおける新出現型ヒトロタウイルスの蔓延に関する分子疫学的研究/小林宣道(札幌医大・衛生学)
- ・緑茶ポリフェノールと要介護・死亡リスクとの関連に関する血清疫学研究/辻 一郎(東北大・公衆衛生学)
- ・医師の地域間偏在に関する探索的研究/前沢政次(北大・医療システム学)
- ・顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)による急性心筋梗塞治療の臨床的研究/高野博之(千葉大・循環器内科学)
- ・新規の脳内摂食調節物質の同定と治療応用研究/中里雅光(宮崎大・神経呼吸内分泌代謝内科学)
- ・遺伝子改変マウス作製による2型糖尿病の分子メカニズムの解明/窪田直人(東大・糖尿病・代謝内科学)
- ・甲状腺濾胞癌の術前低侵襲診断法の確立/高野 徹(阪大・臨床検査診断学)
- ・新生児TSS様発疹症における免疫寛容誘導に対する制御性T細胞の役割の解析/高橋尚人(自治医大・小児科学)
- ・組織再生技術と生体内吸収性材料を応用した新規ハイブリッド型再生椎間板の開発応用/小谷善久(北大・整形外科)
- ・子宮内膜幹細胞を標的にした子宮内膜症の病因メカニズムの解明と新しい治療法の開発/丸山哲夫(慶大・産婦人科学)

## ◆診療関連死の死因究明制度創設に係る公開討論会

平成20年7月28日に、主催：日本医学会、協賛：日本医師会、日本病院団体協議会、日本看護協会、日本歯科医師会、日本薬剤師会の各団体で公開討論会を日本医師会館大講堂におい

て開催した。

討論会では、主に、厚生労働省から6月に出示された「医療安全調査委員会設置法案(仮称)大綱案」を下に、日本内科学会、日本外科学会、日本救急医学会、日本麻酔科学会、日本医師会、全日本病院協会の代表者から講演をいただき、続いて総合討論を開催した。総合討論会では、種々の意見があった。

## ◆日本医学雑誌編集者会議

今年度の新規事業として、「日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)ならびにシンポジウム」を北村聖組織委員長(東大医学教育国際協力研究センター教授)の下、8月1日に開催した。日本医学会分科会105学会中94学会の学会誌編集者が出席した。10月中には、本会ホームページに編集者会議の内容を掲載予定。

この度、日本医学雑誌編集者会議 Japanese Association of Medical Journal Editors (JAMJE)を設置した背景には、WHO西太平洋地域医学情報データベース日本委員会(WPRIMJ)にて医学雑誌の質の向上のために編集者間の意見交換の必要性が挙げられたことに端を発している。またJAMJEの目的としては、1)医学雑誌と編集者の自由と権利の擁護、2)医学雑誌の質の向上への寄与、3)著者と医学雑誌・編集者の倫理規範の策定、4)海外の編集者会議との連携等である。今後継続して活動していく。

## ◆日本医学会臨床部会運営委員会

臨床部会会議は臨床系の73学会を参集し、平成20年10月8日に開催を予定しているが、その活動の核になっている臨床部会運営委員会では、今年度、医療事故の死因究明、中立的第三者専門機関の設置、臨床研究における被験者の保護と倫理の確保について等の問題を検討し、3つの声明を発した。詳細はホームページのお知らせをご覧ください。